

塾生による

リレー・エッセイ (1)  
ちょっといい話  
ロサンゼルス編

サンタモニカの丘の上に建つゲティ・センターを訪ねました。入口から3両編成のトラムに乗って5分、1.2キロの丘を登ると、5つのモダンな白いパビリオンとギャラリー、300ヘクタールの敷地に数々の庭と白いパラルのカフェ、ガーデンテラス等がありました。



野口 治代  
(連塾4期生)



ゲティ・センター

1997年に石油王J・ポール・ゲティの財団が10億ドルかけて建設し、入場無料です。5つのパビリオンに1400年から年代別に、絵画・彫刻・調度品・書籍等がロープで遮れることなく展示され、ノーフラッシュなら撮影も自由です。私もフラッシュをオフにしたつもりでシャッターを押すと、ピカッと光り大慌ての私に、黒いスーツのマイクタイソンに似た係員が近寄って来てカメラを取り上げたので、青ざめて言い訳をしていると、彼は私を咎めることなく、カメラの操作方法を丁寧に教えてくれたのです。そして、「たくさん撮って、楽しんでね」と、ニコリ笑って去って行きました。5つのパビリオンと全部の庭を廻り、丘下の展望を楽しむには、1日でも足りないほどです。まるで、リゾートにいるような美しい美術館でした。

遠く笠岡より連塾第1期生・守屋基範さんも参加され、各人の近況報告に続いて、ピアノの生伴奏で、皆さんが自慢の喉を披露されました。「句会」も持たれ、格調高く句づくりに挑戦しました。最優秀作品は、連塾2期生・野島淑子さんの「新緑に笑顔ついで夢語る」でした。



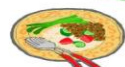
千房新太郎  
(連塾2期生)



連塾スタートから5年目に入り、熙連会が主催する懇親会でも色々な背景の人々の交流からいつながりが生まれています。人は自然のみでも癒されず結局人に癒される事が多いというのを実感します。古き時代のいい慣習、心の触れあい助け合いを再度社会に蘇らせたものです。

連塾・健塾同窓会

熙連会きれんかいの懇親会がありました！



5月2日(土)の午後5時より連塾の修了生ならびに健塾2年以上の在籍生で構成された同窓会組織「熙連会」(きれんかい)の懇親会が開かれました。連塾1期生・伊賀功悦さんが、奥様の経営しておられる岡山市北区建部町のイタリアン・レストラン「deja-vu」(デジャ・ヴュー)の会場と料理を提供してくださいました。

特定非営利活動法人(NPO法人)

連塾ニュース

第1号

平成21年7月18日発行

(所在地: 〒700-0015 岡山市北区京山1-2-21  
☎086-251-4615)

編集担当  
角田みどり・田口琢磨

「連塾」創設5年目を迎えて

理事長 松畑 熙一



松畑 熙一 理事長

「連(つながり)」をキーワードに岡山市北区京山の地に私財を投じて建設した拠点施設で地域創生リーダー養成塾「連塾」を創設して、5年目を迎えることとなりました。ここに「連塾ニュース」の創刊となり、大変嬉しく思っています。この間、「人と人の連」「人と自然の連」「人と歴史の連」を求めて、人・自然・歴史に学び、「一人が変われば世界が変わる」をモットーに、「人づくり・地域づくり」を基本理念としてスタートしました。最初は、「連塾」と「地域創生学研究所」(現:地域創生研究会)を設置して、学びと研究を進め、2年目からは、「福寿社会創生活動塾「健塾」」を併設し、3年目には、「特定非営利活動法人連塾」としてNPO法人としての活動を展開しています。江戸時代を中心に教育の中核的役割を果たした寺子屋や私塾が今や衰退していることに危機感を持ち、「夢のある地域を創生する人材育成を」と、「岡山の下村塾」を目指してきました。「地域づくりは人づくり」と言われるように、自分づくりを基盤にした人づくりに努め、未来に夢と希望を持てる地域社会を創っていき、地域から世界に発信していく「ローバル社会人」を輩出したいとの熱い思いで諸々の地域活動も実践してきました。桃

太郎伝説にちなんだ地産地消の健康長寿鍋「桃太郎鍋」「温羅鍋」、歴史をかみしめながらの健康ウォーク「歩こう・連こう・旧山陽道」、笠岡諸島島づくりと連携した夏季合宿研修会、などを継続して実施しています。

現代社会が抱えている最大の問題点とも言える「自然から離れた人間の奢り」から脱皮し、「生命皆兄弟」の「命の連」と「自然の恵みに生かされて人間として生きる力」としての「自然人間力」をともに培うことに適進したいと考えています。そして、都会文明と田舎文明のように対立した二つの核を持って融和した「楕円社会」としての「日本文明観」を世界に発信して、平和で明るいグローバル社会を実現すべく、新たなスタートをきたいの思いを強くしている昨今です。



コミュニティ・プラザ連塾

事務局から



佐藤 大介  
(事務局長)

(1)行事日程

- ※月例会日程に、変更はありません。
- ×7月25日(土)~26日(日) 笠岡諸島研修会
- ×10月18日(日) (\*日程を変更) 第7回旧山陽道歩く会
- ×11月3日(火・祝) 英語教育一貫カリキュラム委員会 共催英語イベント in おもちゃ王国
- ×12月6日(日) 地域創生フォーラム

(2)事務連絡

×今年度から、会員相互の「連」をより深めていただくために、会員名簿を配布することとなりました。これまでも多くの皆様からのご要望がありましたが、個人情報保護の観点で差し控えていました。この度、会員情報公開に関して皆様への事前調査を実施し、理事会の承認を得て、ようやく会員名簿が完成しました。×12月6日開催の地域創生フォーラムは、連塾のこれまでの活動実績を広く発表し、様々な活動団体との情報交換を図ることを目的としています。そのため、会員の皆様には積極的に運営に関わっていただきたく、今後の実行委員会には是非ともご出席をお願いいたします。~連塾らしいフォーラムに創り上げましょう!~

編集後記

\*私たちが編集を担当します！

この度、広報誌「連塾ニュース」の編集を担当することになりました。ともに連塾の1期生として、本法人のさらなる発展と躍進を願って、皆様方にホットな情報を提供して参りたいと考えています。

ニュースは、7月・11月・3月の年3回の発行を予定しています。今回は、記念すべき第1号として、「顔の見える広報誌」になるように努めました。掲載してほしいニュースや出来事が何かございましたら、いつでもご遠慮なくお申し付けください。可能な限り取材に駆けつけます。

今後とも、どうぞよろしくご協力・ご支援の程、お願い申し上げます。



田口 琢磨 角田みどり  
(連塾1期生) (連塾1期生)

連塾5期生が入塾した開講式

平成21年4月25日(土)



開講式での講義の様子

講義の柱は、「連語」としての「大火の改心」「ローバル社会」「自然人間力」「ヒューマン・ネットワーク」でした。その後、互いに自己紹介をして、自ら何を求めて入塾したかを話し合い、学習を深めることを誓って式を閉じました。



小笠原ヒロ子  
(連塾5期生)

この度、連塾5期生として入塾させていただきました。これまで通訳の仕事一筋に生きてきましたが、連塾でもっと社会に目を向け、多くの人とつながりを持ちながら、多様な学びをしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

## コミュニティ・ビジネスを学んだ 島根・益田市匹見町「萩の会」との交流会



平成21年5月30日(土)~31日(日)

平成20年秋の「沖縄・人生塾」との交流会、本年2月の「山口・人づくり地域づくりフォーラム」に引き続き、第3回目を迎えた県外視察として、平成21年5月末の1泊2日で、島根・益田市匹見町「萩の会」との交流会に出かけてきました。当初は13名の参加を予定していましたが、松畑理事長が緊急を要する公務のため、やむなくご欠席となり、相次いで、仕事やご家庭の事情により2人欠席で、当日は10名の参加となりました。連塾4期生・平井芳和さんの絶大なるご協力により、ご所有の大型バスを借用させていただきました。2日間、大型車の免許をもつ事務局員・佐藤大介さんの安全運転で、車内は和気藹々とした雰囲気の中、歴史〇×クイズやマイクを回しての「心に残るいい話」スピーチなどが繰り広げられ、親睦が深まりました。

目的地の島根県益田市匹見町は、西中国山地の山並みが連なる谷間の集落です。岡山駅西口を午前8時に出発し、山陽自動車道を岡山ICから入り、戸河内ICに出て、国道191号線、県道307号線を走って匹見町に到着したのが午後12時30分、約4時間半のドライブとなりました。匹見町に入ると、「清流日本一の山里」という看板が、私達を出迎えてくれました。

地元食堂での昼食後、最初に見学したのは地区振興センター。センター長の渡邊友千代氏が、匹見町に点在する夥しい数の縄文遺跡や発掘された多数の石器・土器などについて丁寧に時間をかけ説明してくださいました。

続いて、表匹見峡の散策に出かけました。辺り一帯は、緑色にこんなにも多様な色合いがあるのかと思える位、若葉、濃緑、苔緑…に囲まれた世界。全身にマイナス・イオンいっぱいグリーン・シャワーを浴びることができました。宿泊施設の「いこいの家」に入った後、匹見峡温泉に浸かって疲れをとりましたが、この温泉のヌルヌル感がまた最高。何度も入浴したいと思えるような上等な水質でした。



「萩の会」代表取締役  
齋藤ソノさん

いよいよ夕食の時間となり、「萩の会」代表取締役、齋藤ソノさんが登場。85才とは思えない程お若く凛としておられ、運び込まれた山菜、山野草を中心とした郷土料理についての説明をしてくださりました。「調味料以外は全部、地元で採れた食材です」と話されたソノさんの言葉に感動して、箸を進めました。山女魚の塩焼き、鮎飯、蕨、野草の天ぷら、などに舌鼓を打ちながら、地域創生論で盛り上がり、匹見の夜が静かに更けていきました。

翌日の午前中、ソノさんと一緒に匹見町の萩原地区一帯を散策し、食することのできる様々な野草の名前を教えていただいた後、楽しみだった「縄文料理」を口にすることに！古代米(赤米)のおにぎりや骨付きの猪肉など、余りの豊かな食材に、「縄文人は意外に贅沢な食生活だったのでは」との声も上がる程。続いて、ソノさんたち20戸足らずの住民が過疎化・高齢化に悩む地域課題を解消するために、結束して株式会社「萩の会」を立ち上げ、地域創生に取り組んだ経緯を伺いました。主婦層で手がけた「山野草料理」、地域の特色

を生かした「縄文体験」、行政が投げ出した「ブルーベリー栽培」の畑を譲り受けての、「ジャム・キャラメルの商品化」等が見事に成功し、全国から「萩の会」の実践が注目を浴びるようになりました。「地域を何とかせねば」という熱い思いと深い郷土愛や企画力が地域創生を成功に導いたということを実感することができました。



縄文料理の一部

おまけとして、「巨大迷路」や「ミステリー・ハウス」で遊び、茅葺きの入母屋造り旧割元庄屋「美濃地屋敷」も見学でき、最高の研修視察旅行となりました。今回参加できなかった皆さん！ぜひもう一度、季節を変えて匹見町を訪問しましょう！



匹見峡のグリーン・シャワー



「萩の会」社員の皆さんと「萩の会」前にて

耳よりの情報！

### 「栓キット」をご活用ください！

～連塾修了論文発表会(平成21年3月)より～

岡山県の68%が森林で、その内の40%が人工林です。戦後植林した森林が伐採時期に到達しながら、自由経済論理で極端に安い金額のため、間伐が進んでいません。……私は現在、伐採材製材品を活用し、木造の大型建築物の推進活動しております。連塾に置いてある栓キットは、柱・土台で使用した端材です。(年間2万本程、使用しております)この香り成分(フィトンチッド)には、リフレッシュ効果、消臭・脱臭効果、抗菌・防虫効果があります。連塾に置いてある栓キット利用方法をご参照のうえ、どうぞお持ち帰りください。(栓キット 大きさ12cm角)



安田 年一  
(連塾3期生)

## 歩こう！ 連ごう！ 「旧山陽道歩く会」を振り返って



衣笠 宏  
(連塾1期生)

「旧山陽道歩く会」(以後本会)は、H16年設立の駅西地域街づくり協議会が、H17年度の内閣官房都市再生本部の全国都市再生モデル調査に応募し、応募総数587件の中から選定された際、駅西地域の歴史の再認識の一環で連塾と協働し、松畑塾長に会長をお願いして、H18年1月に発足しました。

奉還町商店街は江戸時代の旧山陽道沿いであり、大政奉還の際に武士が奉還金で旧山陽道沿いで商売をしたのが始まりとされています。モデル調査の結果60%の地元住民でさえ、その歴史を知らないことが判り、地元の歴史と伝統を知り、愛着を持ってもらうために本会を設立しました。本会のキャッチフレーズと理念は、塾長と相談して



第6回 旧山陽道歩く会の様子(5月17日)

「歩こう 連(つな)ごう 旧山陽道」とし、旗印としました。

第1回目は、H18年の5月に奉還町から吉備津神社まで、H20年11月は第5回目、奉還町から神辺まで襷をつないだことになりました。神辺出身の松畑塾長が連塾で話された管茶山の「廉塾」を実際に見学できた時、塾長と私の約束「神辺まで襷をつなぐ」ということが果たされた達成感と安堵感が胸の内に大きく広がりました。

第6回目からは、塾長には名誉会長になっていただき、塾長から会長のバトンを衣笠にお譲りいただき、三石まで襷をつなぐ予定です。これからも「人と人の



第6回 講師の  
植田心壮先生

つながり」「人と歴史のつながり」「人と自然のつながり」に思いを巡らせ、旧山陽道を楽しみながら歩きたいと思っています。

最後になりましたが、松畑塾長、連塾の皆さまには、多大なご協力を賜り、心から感謝いたしますと共に、今後ともご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

### 福寿社会の創生を目指して



高橋 澄代  
(健塾1期生)

元気で  
長生き！

## 「健塾」の活動から



「健塾」は、健康で長生きすることをテーマとして、「医・食・心」を中心に年間計画を立てて学ぶスタイルです。月1回の勉強会が非常に楽しみです。若い時には考えなかった事ですが、人間生きていく為には日々の努力の積み重ねが大事であると実感し入塾してから、4年目に入りました。

75才を過ぎて、後期高齢者医療保険者証を岡山市より送り付けられた時、気分は若いつもりでも、「年齢」を目の前に突きつけられた感じがしました。加齢は防げませんが、老化は少しでも遅くすることは出来ます。健塾で、色々なメンバーと知り合い、違った角度からの考え方や生き方を学び、自分の中で昇華させています。

今年度の「食」については、5月に外部研修を実施し、「こやま食堂」にて玄米食と野菜食について学び、西洋医学と東洋医学の違いや、食の力で少しでも病気の進行を遅くする事、免疫力を高めて自然力を養い実行できる事などを理解することができました。野菜の色で効く臓器が違います。白⇒肺、黄⇒胃、赤⇒心、緑⇒肝、黒⇒腎です。カルシウムの多い野菜は、切り干し大根、アシタバ、キャベツ等々でした。

毎回、健塾で生きる活力と元気と笑顔を頂いていることに心から感謝しております。

健塾の外部研修会「こやま食堂」にて

## 地域創生学研究会が 「地域創生学研究序説」を刊行しました！



連塾が開設されたと同様に、地域創生学研究所も立ち上がりましたが、現研究会は、地域創生に関する基礎理論を明らかにし、実践につなぐべく新たな「地域創生学」としての学問体系を確立していこうという研究団体です。このこれまでの研究を序説として1冊のミニ冊子にまとめました。監修にあたってくださったのは、本研究会の松畑会長と顧問の住野好久先生(岡山大学教授)のお二人です。二人の先生をはじめ、他の14名の会員が執筆を分担しました。内容は、まず「今、なぜ地域創生なのか」に始まり、「地域とは何か」「地域創生の課題や夢」「地域創生の主体者はだれか」などの基礎理論と、会員各自の体験に基づく実践事例が掲載されています。コミュニティ・プラザ連塾に置いてありますので、ご高覧の上、ご指導・ご助言をお願いいたします。次号につながることを期待しています。